



【民俗部門】

水戸の街や人々に暮らしの  
移り変わりがわかる資料を収  
集・展示しています。特に、昭  
和時代に使われた生活道具が  
充実しており、常設展や展覧会  
で紹介しています。

※市立博物館は、6月12日まで閉館していま  
す。また、新型コロナウイルス感染症対応  
のため、展示内容を変更する場合があります。

第3回

# 妖怪パワー



民俗部門の新たな常設展のテーマは、妖怪です。ユーモアあ  
ふれる妖怪たちの姿を見て、楽しんでください。

問合せ／市立博物館(☎226-6521)

つくも神は、古くなって捨てられた道具類に  
魂が宿り、妖怪となったものです。人間に長年  
使い込まれた果てに、部屋の隅に追いやられた  
り、路上に捨てられたりと、散々な扱いを受け、  
寂しくなった古道具たち。どうしたものかと相  
談して、それぞれの道具の姿をひきずった「妖怪」  
として生まれ変わりました。

もちろん、これはフィクションです。しかし、  
室町時代から江戸時代の絵師たちは、道端や廃  
屋に放置された古道具をみて、このような「つく  
も神」を作り出したのです。つくも神が時代を超  
えて愛されているのは、当時の絵師たちの想像  
力、独創性、そして何よりも絵に対する卓越し  
た技量のたまものだと思います。

当館では、妖怪たちをかわいイラストにし  
て、オリジナルの妖怪パネルを作りました。展  
示方法も、このユニークなつくも神に感じて、  
箒や箆が空中を飛んだり、破れた提灯が登場し  
たりするなど、工夫を凝らしています。ぜひ、  
楽しいつくも神ワールドをご覧くださいとい  
思います。



瓦版に描かれた妖怪アマビエ

今回もうひとつご紹介するのは、妖怪「アマビ  
エ」です。京都大学附属図書館が所蔵する瓦版に  
よると、アマビエは、江戸時代後期の肥後国(現  
在の熊本県)で、夜の海中から現れたとされてい  
ます。長い髪と鳥のくちばしのような口、鱗に  
覆われた半身を持ち、3本の尾にも見える足で  
立つ姿で描かれています。自ら名前を名乗った  
うえ、「当年より6か年の間、諸国で豊作が続く  
が、疫病も流行する。(病気を防ぐためには)私  
の姿を描いた絵を人々に早々に見せよ」と告げ、  
海中に帰っていききました。

このことから、アマビエは豊作や疫病を予言  
する妖怪として伝えられています。新型コロナ  
ウイルス感染症が流行している現在、全国で大  
注目の妖怪なのです。当館でも、瓦版のアマビ  
エをパネルにして展示しています。皆さんも、  
アマビエの姿を描き、他の人に見せてみてはい  
かがでしょうか。妖怪パワーで疫病を打破した  
ものです。

(水戸市立博物館民俗部門学芸員 坂本京子)

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)  
〒310-8610 水戸市中央1-4-1  
ホームページ / <https://www.city.mito.jg.jp>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・232・9107  
☎029・224・5188 [kounou@city.mito.jg.jp](mailto:kounou@city.mito.jg.jp)